

## 小児の事故防止対策システムの試みに関する研究 (分担研究：小児の障害につながる傷病に関する研究)

高野 陽<sup>1)</sup>、衛藤 隆<sup>1)</sup>、山中龍宏<sup>2)</sup>

**要約：**事故防止を社会的観点からとらえ、事故のサーベイランス・システムを確立することが可能であるか否かを検討した。方法としては、事故・中毒の発生を記載する実態調査用紙を2種類作成し、医療機関、ならびに幼稚園・保育所において調査した。われわれが作成した調査用紙による調査は可能であることがわかったが、施設によって得られる情報が異なっていた。今後は、小児が生活している場のすべてから情報を収集し、この調査用紙を使って幅広く調査を行うことが必要と考えた。

**見出し語：**不慮の事故、中毒、事故の予防、サーベイランス・システム、調査用紙、実態調査

### 1. 研究目的

小児の事故防止には、広い視点からのアプローチが必要である。これまでの研究では、小児の社会生活の場(保育所、児童館)における事故の実態を調査し、事故発生の問題点を指摘した。今年度は、さらに事故防止を社会的システムとして確立するため、事故のサーベイランス・システムを確立することが可能であるか否かを検討した。

### 2. 研究方法

事故・中毒の発生の実態調査を行うための調査用紙を2種類作成し、医療機関、ならびに幼稚園・保育所における事故・中毒の発生状況とその処置について調査した。調査期間は、1989年1月9日

から1月31日までとし、調査対象としては、医療施設2カ所(太田総合病院小児科、焼津市立総合病院小児科)、保育所2カ所(小田原愛児園、麻溝保育園)を選んだ。これらの施設に調査目的を説明し、事故・中毒発生時に調査用紙に記載してもらうように依頼した。また、この調査自身に対する意見、調査用紙のなかで記入しにくい箇所や不明な点などについても指摘してもらった。

### 3. 研究結果

(1) われわれの作成した調査用紙に対する意見により、記入に際しての不明な点や、不備な点について修正し、医療機関用と幼稚園・保育所用の最終的な調査様式を表1、2のように決定した。

1) 国立公衆衛生院母性小児衛生学部

2) 東京大学医学部小児科

(2) 3週間の間に8例の事故・中毒の発生がみられた。8例とも日常よく遭遇する事例であった。

(3) 医療施設(4例)では中毒の事故が3例と異物侵入が1例、保育所(4例)では全例切傷であった。

#### 4. 考察

小児の死亡に関する統計では、不慮の事故による死亡率が最も高い(0歳児を除く)。小児の事故・中毒の研究は、その多彩さ、複雑さ、多面性などのために、一般に医学で行われている研究の方法——現状の把握、分析、原因の解明、対処法の発見、予防法の確立など——を適用することはたいへん難しい。また単に医療のみを研究の対象としているだけでは、社会現象としての事故・中毒を把握することは不可能である。今回われわれは、小児の事故の現状を正確に、かつ経時的に把握するためにはどのようなシステムを確立すればよいかを検討した。

現在まで、地域を主体とした事故・中毒に関するretrospectiveな報告は数多くみられる。これらの報告の調査内容にはいろいろなものがあるが、調査結果には大きな違いは見られない。

われわれは、今後、小児の事故・中毒に関する情報にある程度の統一性をもたせることが望ましいのではないかと考え、事故・中毒の調査用紙の様式を検討した。いままで報告されている調査の様式や内容を参考とし、最大限の情報が得られるようなものとした。今後は、これらの調査用紙以外にも、家庭における小児の事故・中毒に関する調査用紙の作成、調査が必要であると考えている。今回は、これらの情報をどの様に処理し、利用するかについては検討しなかった。

今回の調査は調査期間が短く、例数も少なかったため事故・中毒について詳しく分析することは不可能であった。しかし、今回の調査により、

(1) われわれの作成した調査用紙による調査は可能であること、

(2) 医療機関と保育所では得られる事故発生の情報が異なっていること(医療機関では経口的中毒の事故が多く、保育所では外傷が多い)、

(3) 従って事故発生情報を正確に把握するためには、小児が生活している場のすべてから情報を収集する必要があることがわかった。

今後は、最大限の情報を得ることができ、事故・中毒の発生にかかわった人が記入しやすく、また多方面から利用することのできる調査用紙を確立することが必要であると考えており、さらに用紙の様式を検討中である。

今後は、地域特性を考慮した数カ所を選び、家庭・保育所・幼稚園・学校・医療機関などにおいて、われわれが作成した調査用紙を用い、種々の情報を収集することにより、事故・中毒の実態を多角的に把握する必要がある。さらに、事故・中毒のサーベイランス・システムの確立を図り、情報をフィードバックして事故防止を図るための試案作りに向けての継続した研究が望まれる。

# 小児の不慮の事故に関する調査

(医療機関用)

記入日：19\_\_年\_\_月\_\_日

【事故にあった子ども自身のことについておたずねします】

- 患者名 (イニシアル) \_\_\_\_\_ (男・女)
- カルテ番号： 外来№ \_\_\_\_\_ 入院№ \_\_\_\_\_
- 生年月日： (昭和, 平成) \_\_\_\_年\_\_月\_\_日  
来院時の年齢 \_\_\_\_歳 \_\_\_\_カ月
- 患者住所： \_\_\_\_\_ 市 (郡) \_\_\_\_\_ 区 \_\_\_\_\_ 町 (村) \_\_\_\_\_
- 出生順位： \_\_\_\_人 \_\_\_\_番目

【事故の概要についておたずねします】

- 発生日時： \_\_\_\_月\_\_日 ( \_\_\_\_曜日) 午前・午後 \_\_\_\_時 \_\_\_\_分
- 事故のおこった場所はどこですか？ ( ) 内の該当する記号に○をつけてください。  
また、( ) 内はあてはまるものを○で囲ってください。  
→ (a. 自宅 (部屋, 台所, 風呂場, 玄関, ベランダ, その他 [ ] ) ;  
b. 他人の家 (部屋, 台所, 風呂場, 玄関, ベランダ, その他 [ ] ) ;  
c. 道路上 (歩行中, 自動車乗車中) d. 駐車場, e. 公園, f. 保育所,  
g. 幼稚園, b. 学校, i. 野原, j. 河川, k. 池・沼・湖・海, l. 海,  
m. その他 ( ) )
- 事故の種類 (当てはまる箇所□内に√印をつけ、下線の部分にご記入ください。  
また [ ] がある所では、該当する記号に○をつけてください。

- ①中毒 (誤飲, 誤嚥を含む)
- 経口経路 → (a. 糕口, b. 吸入, c. 経皮, d. 眠, e. その他 ( ) )
  - 物質名 (具体的に) : \_\_\_\_\_
  - 量 (単位) : \_\_\_\_\_ (ml, l, gm, 個, 本, 錠, 滴, その他 ( ) )
  - 薬剤の場合：剤型 (a. 錠剤, b. 散, c. 顆粒・顆粒, d. 液, e. 軟膏, f. クリーム, g. その他 ( ) )
  - 火傷・熱傷 ( ) 度 部位 ( )
  - 溺水 → 場所 (a. 屋外, b. 屋内)
  - 外傷 → (a. 骨折, b. 脱臼, c. 捻挫, d. 切傷, e. 刺傷, f. 挫傷, g. 咬傷, h. その他 ( ) )
  - 身体部位は？ (具体的に) → ( )
  - 原因は？ → (a. 自動車, b. 自転車, c. 三輪車, d. 転落, e. 玩具・遊具 → 何？ ( ) , f. 刃物, g. ガラス, h. 家具, i. 動物, j. その他 ( ) )
  - 異物侵入 (①に該当しないもの)
  - 侵入部位 → (a. 眼, b. 耳, c. 鼻, d. 肛門, e. 膈, f. 尿道, g. その他 ( ) )

- ②突然死 → (a. 突然死, b. ニアミス (突然死をおこしかげ助かったもの) )
- ③その他: \_\_\_\_\_ \*

- 事故の発生状況について (できるだけ具体的に詳しく書いてください)
- 最初の発見者はだれでしたか？  
→ (a. 母, b. 父, c. 祖母, d. 祖父, e. おば, f. おじ, g. 同胞 [兄・弟・姉・妹], h. 近隣の大人, i. 近隣の子ども, j. 教師・保母, k. その他 [具体的に] ( ) )
- 事故発生時の子どもの意識者は誰でしたか？  
→ (a. 母, b. 父, c. 祖母, d. 祖父, e. おば, f. おじ, g. 同胞 [兄・弟・姉・妹], h. 近隣の大人, i. 近隣の子ども, j. 教師・保母, k. その他 [具体的に] ( ) )
- 事故発生時にその場における子ども意識者は何に従事していましたか？  
→ (a. 家事, b. 疲労, c. 保育, d. 休憩 (テレビ・読書等) , e. 雑談, f. 睡眠, g. その他 ( ) )

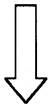
- 【事故後の処置についておたずねします】
- 事故後、来院するまでにどのような処置がなされていましたか？
  - 貴院に来る時の交通手段 → (a. 救急車, b. タクシー, c. 自家用車, d. 徒歩, e. その他 ( ) )
  - 来院時刻 ( ) 月 \_\_\_\_ 日 \_\_\_\_ 午前・午後 \_\_\_\_ 時 \_\_\_\_ 分
  - 来院後の処置内容 \_\_\_\_\_

- 入院の有無 → (a. 当院に入院した, b. 外来処置のみ, c. 他院紹介)
- 転倒 → (a. 軽快, b. 後遺症 ( ) , c. 死亡)
- 処置について中継情報センター (中継110番) を利用しましたか？  
→ (a. 利用した (つくば, 大阪大学) , b. 利用しない)
- 注：つくば中継110番 0298-52-9999, 大阪中継110番 06-451-9999
- その他 \_\_\_\_\_

- 本症例には今回の事故以前に事故の既往がありましたか？  
→ (a. あり, b. なし)
- この事故の再発を防止するためには、具体的にどのような点に留意すべきとお考えですか。御意見を お書きください。

【貴院名と連絡先をご記入ください (ゴム印でも結構です)】





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:事故防止を社会的観点からとらえ、事故のサーベイランス・システムを確立することが可能であるか否かを検討した。方法としては、事故・中毒の発生を記載する実態調査用紙を2種類作成し、医療機関,ならびに幼稚園・保育所において調査した。われわれが作成した調査用紙による調査は可能であることがわかったが、施設によって得られる情報が異なっていた。今後は、小児が生活している場のすべてから情報を収集し、この調査用紙を使って幅広く調査を行うことが必要と考えた。